

## 令和2年度 焼津中央幼稚園 自己評価・学校関係者評価

令和3年2月20日

学校法人齋藤学園 焼津中央幼稚園長 今村千枝

学校法人齋藤学園 焼津中央幼稚園学校関係者評価委員

### 1 幼稚園の教育目標

「明るく、たくましく、頑張る子」

### 2 重点目標

- (1) 健康（心身の健康に関する教育）
  - ・心身共に健やかで、よく遊ぶ事。
- (2) 人間関係（人とのかかわりに関する教育）
  - ・自分で出来る事は自分で行い、他人を思いやり、他人と協力出来る態度習慣を養う。
- (3) 環境（自然や身近な環境に関する教育）
  - ・身近な動植物を愛し、自然や社会の事に対する興味や関心を持たせる。
- (4) 言葉（言葉の獲得に関する教育）
  - ・日常生活に必要な言葉への興味や関心を育て、よろこんで話したり聞いたりする態度や言葉への感覚を養う。
- (5) 表現（感性と表現に関する教育）
  - ・生活を通して豊かな情操を養い、思考力の基礎と道徳性の芽生えを養う。
  - ・いろいろな表現活動の体験の場を通して、豊かな感性を育て創造性を養う。

### 3 評価項目の達成及び取組状況

別添「評価項目の達成及び取組状況一覧表」のとおり。

### 4 自己評価コメント

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、4月に入園式を行い、6月からの保育になったが、預かり保育はおこなった。預かり保育は、子どもの人数を10人～15人を一部屋で保育し、換気、消毒等行い、子ども、教職員はマスクを着ける事を徹底させた。極力、保育室で過ごすことは避け、園庭、公園に出かけた。休園中は親子体操のプリントや製作物等を自宅で出来る物を何度か郵送し、親子で完成させ園に提出してもらった。また、各家庭に電話をかけ子どもの様子を伺った。2ヶ月の休園期間、家庭と園とこまめに連絡を取ることができたと思う反面、動画配信を使えば子どもとの関わりがもっともてたと感じる。6月より保育開始を行う前に再度、新型コロナウイルス感染症予防対策として、健康観察カード、サーマルカメラの設置、手洗い、手指消毒、うがい、保育室の消毒及び換気、マスク着用の徹底、食事の私語をなるべくしないように、園全体で徹底した。

園行事は、全ての行事をやめるのではなく、その時出来ることをやろうと教職員で決め、社会情勢をみながら、行事を行うことになった。行事前に何度も、計画を立て直しながら行事を行うことが多かった。難しく感じることも、思うことも多かったが、色々な発想が保育士から聞くことが出来た。固定観念ではなく、新しい発見に繋がった。

コロナウイルスとの戦いは、これからも続くとおもうが、感染予防を徹底し感染しないように注意していきたい。メリットとしては、手指消毒、マスクをしているためインフルエンザ、胃腸炎にかかる子どもがいなかった。また、欠席する子どもが少なかった。

今年度は

『子ども達一人ひとりの姿勢、話を聞く姿勢を身につける。』

と目標を教職員で決め、子ども達に声をかけて常に意識をさせた。保育室での姿勢、体操集会等でも、座る姿勢や整列が上手になったように思う。

日常生活の基本となる「食事・睡眠・排泄・清潔・衣類の着脱」が、スムーズに出来ない幼児が、年々増加してきているように思う。食事に関しては、朝食を摂らない子、偏食、指先が思うように動かず、お箸が使えない子が見られたことから園児には、給食を通し、苦手なものも一口食べるように声を掛け、保護者には、一週間に一度のお弁当の日には幼児が好きな物だけを入れていただけるように、声を掛けた。食品アレルギーがある幼児が増え、日々全園児同じものを食べることができないが、“お楽しみ給食”として月に一度、同じものを食べるようにしている。給食との違いは幼児なりに、気にしている。なるべく、同じものが、食べられるように、給食センターの方々と連絡をとり改善できるところはしていきたい。

送迎の園児は、保護者と教員三者揃って門で、バス通園の園児は保護者と教職員の三者で「おはようございます、行ってきます」と元気よく挨拶をしている。帰りも「さようなら」と挨拶ができています。「ありがとう」「ごめんなさい」が促されることなく、自分の口から素直に言えるように指導していきたい。

当番活動では、年少児は前に立つことやお手伝いをすることが嬉しく、当番活動を心待ちにしている。年中・年長児になると人前で話す事が苦手な子がいて、消極的な姿を見ることがある。年長児は、全園児に今日行なった活動や、思っていることを放送で伝えている。自分の言葉で想いを伝える幼児の姿を見ることで成長を感じる。

幼児が楽しみにしている園行事。毎年工夫しているが、少人数ではあるが楽しめていない幼児もいるので手を加える必要がある。幼児にわかりやすく、四季折々の行事、伝統を伝えながら、園行事を進めていきたい。

園の周りは、住宅地のため自然豊かではない。園近くの川沿いを散歩し、鯉や花をみた。

JA 大井川様が協力してくださり、昨年度はじゃが芋を植え、6月に収穫したじゃが芋でカレーにして食べた。秋にはさつま芋を植えた。日々伸びる弦、雑草の多さに幼児たちは驚き、バッタやミミズ等の虫にも関心を持っていた。弦は、クリスマスリースにしてお世話になった方々にプレゼントした。

在園児全員が静大農場に行き、年少児はみかん、年中児はサツマイモ、年長児は大根を

収穫した。広々とした畑の中でいつもと違う環境を味わった。年長児が収穫した大根で豚汁を作り、全園児で食べた。年長児は国宝である久能山東照宮へ行き、1,159 段の石段をのぼり参拝した。途中、一ノ門では駿河湾が眼下に広がり素晴らしい景色を見ることが出来た。本殿でご祈祷をしていただき、神主さんから、「自分の言葉で思ったことを伝えられることが大切である。」とお話をいただきました。ご祈祷が初めての子が多く良い経験となった。次年度も園で体験することが出来ない活動も増やしました、園児がわくわくするような園外保育を実践したい。

## 5 学校関係者評価コメント

今年度はコロナ禍の為、行事、保育等がいつも通り行う事が出来なかったと思う。行事の度に教職員で話し合い、その時に合わせ行事が出来たことは良かったと思う。

来年度はどのようになるか分からないが、季節の行事は、季節を行事で感じられるように、行った方が良くと思う。

園外保育も、近場の公園に行くことが多く、少し距離を延ばして出かけても良いと感じる。事故などのことを考えると、難しいのだろうか？親子、異年齢の子どもとの関わりを増やしても良いと感じる。

### 園の見解

今年度は思い通りの園外保育、保育ができず、保護者の皆様にご迷惑をかけた。その中でも行事を行ってきたが、日本の季節の行事、地域の行事を大切にしたい。

教職員で保育の見直し、行事の見直しをしていく必要があると感じ、幼稚園から小学校、中学校、高等学校までを見通して、社会の変化や子ども達の育ちについて、どのようなことを育むかを、幼児の発達や学びの個人差を考えながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」獲得できるように日々の保育を行っていききたい。